



平成28年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成28年1月29日

上場取引所 東名

上場会社名 株式会社 木曽路

コード番号 8160 URL <http://www.kisoji.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 松原 秀樹

問合せ先責任者 (役職名) 経理部長

(氏名) 服部 昭仁

TEL 052-872-1811

四半期報告書提出予定日 平成28年2月5日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成28年3月期第3四半期の業績(平成27年4月1日～平成27年12月31日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年3月期第3四半期	32,222	0.7	△216	—	△198	—	△397	—
27年3月期第3四半期	32,007	△4.1	△246	—	△202	—	△591	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益	
	円 銭	円 銭	
28年3月期第3四半期	△15.39	—	
27年3月期第3四半期	△22.90	—	

(2) 財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年3月期第3四半期	38,255	—	28,855	—	—	75.4
27年3月期	38,213	—	29,522	—	—	77.3

(参考)自己資本 28年3月期第3四半期 28,855百万円 27年3月期 29,522百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
27年3月期	—	7.00	—	7.00	14.00
28年3月期	—	7.00	—	—	—
28年3月期(予想)	—	—	—	7.00	14.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成28年3月期の業績予想(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	44,000	1.3	200	△14.5	255	△7.3	△260	—	△10.06

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	28年3月期3Q	25,913,889 株	27年3月期	25,913,889 株
② 期末自己株式数	28年3月期3Q	77,705 株	27年3月期	76,960 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	28年3月期3Q	25,836,631 株	27年3月期3Q	25,837,402 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続きの対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表に対するレビュー手続きは終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、「添付資料」4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期財務諸表	5
(1) 四半期貸借対照表	5
(2) 四半期損益計算書	7
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

(第3四半期累計期間)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円
平成27年3月期	32,222	△216	△198	△397	△15.39
平成26年3月期	32,007	△246	△202	△591	△22.90
増減率(%)	0.7	-	-	-	-

当第3四半期累計期間(平成27年4月1日から平成27年12月31日まで)におけるわが国経済は、政府による経済政策や日銀の金融緩和により企業収益や個人消費、雇用・所得環境の改善など景気は緩やかな回復基調で推移しました。その一方で海外経済の動向など依然先行きは不透明な状況で推移しました。

外食業界におきましては、期初の株高などによる消費マインドの改善から個人消費の持ち直しがみられるものの、円安などの影響から原材料価格の上昇や人材の確保、異業種との競争など依然として厳しい経営環境で推移しました。

このような経営環境の中で当社は、2店舗の新規出店、1店舗の改築、1店舗の改装、2店舗の業態転換(鈴のれんからじゃんじゃん亭、穂の里)、2店舗の退店を実施し、その結果、当第3四半期会計期間末の店舗数は169店舗となりました。

営業面では、旬の食材による料理や接客サービスの充実に努めるとともに、春の歓送迎会、GW、夏休み、忘年会などの季節毎のイベントを中心に販売促進活動を実施した結果、客数の微減、客単価の微増となり、売上高は前年同期と比べ0.7%の増加となりました。

費用面では、円安、天候不順などによる食材の値上がりや、厳しい採用環境のなか人件費が増加する一方、原油価格の下落などにより光熱費が減少いたしました。

この結果、当第3四半期累計期間の売上高は322億22百万円(前年同期比0.7%増加)、営業損益は2億16百万円の損失(前年同期実績2億46百万円の損失)、経常損益は1億98百万円の損失(同2億2百万円の損失)、四半期純損益は3億97百万円の損失(同5億91百万円の損失)を計上しました。

(部門別の概況)

部門別売上高

	前第3四半期累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)	前年同期比 増減率
	百万円	百万円	%
木曽路	26,658	26,924	1.0
素材屋	2,083	1,955	△6.2
じゃんじゃん亭	759	1,137	49.9
とりかく	806	796	△1.2
鈴のれん	1,059	804	△24.0
ウノ	564	525	△6.9
その他	76	76	0.7
計	32,007	32,222	0.7

木曾路部門

しゃぶしゃぶ・日本料理の「木曾路」部門は、1店舗の新規出店、1店舗の改築により、当第3四半期会計期間末店舗数は119店舗となりました。

営業面では、春の歓送迎会、GW、夏休み、忘年会などの季節毎のイベントや恒例の「和牛しゃぶしゃぶ祭り」、「とらふぐ祭り」を実施するとともに旬のメニューなどの充実にも努めました。その結果、売上高は269億24百万円(前年同期比1.0%増加)となりました。

素材屋部門

居酒屋の「素材屋」部門は、店舗の異動はなく、当第3四半期会計期間末店舗数は18店舗であります。

営業面では、旬のメニューの充実や焼酎のお値打ち販売並びに平日限定フェアの実施により来店客数の増加に努めましたが、前事業年度中の1店舗の退店により、売上高は19億55百万円(同6.2%減少)となりました。

じゃんじゃん亭部門

焼肉の「じゃんじゃん亭」部門は、1店舗の新規出店、1店舗の改装、1店舗の業態転換により、当第3四半期会計期間末店舗数は10店舗となりました。

営業面では、全店で食べ放題メニューの拡販、タッチパネルによる利便性の向上及びスピード提供に取り組むとともに、法人や学生のイベントに合わせた予約獲得活動を実施しました。その結果、売上高は11億37百万円(同49.9%増加)となりました。

とりかく部門

鶏料理の「とりかく」部門は、店舗の異動はなく、当第3四半期会計期間末店舗数は10店舗であります。

営業面では、歓送迎会、忘年会など宴会メニューをより充実させ、また、こだわりの旬の一品提供などを行いましたが、売上高は7億96百万円(同1.2%減少)となりました。

鈴のれん部門

和食レストランの「鈴のれん」部門は、2店舗の退店、2店舗の業態転換(じゃんじゃん亭、穂の里)、当第3四半期会計期間末店舗数は6店舗となりました。なお、業態転換の「穂の里」は、厳選した黒毛和牛や国産牛、産地にこだわった豚肉のしゃぶしゃぶの他、寿司や天ぷらなどの一品料理をお楽しみいただく食べ放題店です。

営業面では、季節ごとのメニューや宴会メニューなどの料理とともに接客サービスの充実にも努めましたが、当事業年度中の退店及び業態転換が響き、売上高は8億4百万円(同24.0%減少)となりました。

ウノ部門

ワイン食堂の「ウノ」部門は、店舗の異動はなく、当第3四半期会計期間末店舗数は6店舗であります。

営業面では、豊富な種類のワインを取り揃え、また、季節ごとのフェアの実施やパーティーコースの充実などに努めましたが、売上高は5億25百万円(同6.9%減少)となりました。

その他部門

その他部門は、外販(しぐれ煮、胡麻だれ類)、不動産賃貸等であります。

その売上高は76百万円(同0.7%増加)であります。

(2) 財政状態に関する説明

資産、負債及び純資産の状況

	前事業年度末 (平成27年3月31日現在)	当第3四半期 (平成27年12月31日現在)	増 減
総資産(百万円)	38,213	38,255	42
純資産(百万円)	29,522	28,885	△666
自己資本比率(%)	77.3	75.4	-
1株当たり純資産(円)	1,142.64	1,116.88	△25.76

当第3四半期会計期間末の総資産は382億55百万円で前事業年度末比42百万円の増加となりました。主な要因は、設備投資、賞与、配当金、法人税等の支払で預金を取り崩す一方で、季節的要因により売掛金、棚卸資産が増加したことによるものであります。負債は、93億99百万円で前事業年度末比7億8百万円の増加となりました。これは季節的要因により買掛金が増加する一方で、未払消費税等が減少したことによるものであります。また、当第3四半期会計期間末の純資産は288億55百万円で前事業年度末比6億66百万円の減少となりました。主な要因は、四半期純損失3億97百万円(減少)、剰余金の配当3億61百万円(減少)であります。

以上の結果、当第3四半期会計期間末の自己資本比率は75.4%(前事業年度末は77.3%)、1株当たり純資産は1,116.88円(同1,142.64円)となりました。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成27年4月28日に公表いたしました通期の業績予想につきましては、現時点において変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期財務諸表

(1) 四半期貸借対照表

(単位:百万円)

	前事業年度 (平成27年3月31日)	当第3四半期会計期間 (平成27年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	13,554	12,923
売掛金	943	1,447
商品及び製品	42	61
原材料及び貯蔵品	574	826
その他	792	875
貸倒引当金	△0	△0
流動資産合計	15,906	16,133
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	7,363	7,168
土地	5,723	5,723
その他(純額)	1,477	1,472
有形固定資産合計	14,565	14,365
無形固定資産	153	123
投資その他の資産		
差入保証金	4,789	4,734
その他	2,829	2,929
貸倒引当金	△30	△30
投資その他の資産合計	7,588	7,633
固定資産合計	22,306	22,122
資産合計	38,213	38,255

(単位:百万円)

	前事業年度 (平成27年3月31日)	当第3四半期会計期間 (平成27年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,205	2,131
短期借入金	950	920
未払法人税等	8	17
賞与引当金	477	193
その他の引当金	287	305
その他	2,865	2,859
流動負債合計	5,795	6,428
固定負債		
退職給付引当金	1,026	1,022
資産除去債務	1,324	1,312
その他	544	636
固定負債合計	2,895	2,970
負債合計	8,690	9,399
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,056	10,056
資本剰余金	9,875	9,875
利益剰余金	9,311	8,552
自己株式	△118	△120
株主資本合計	29,124	28,363
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	397	492
評価・換算差額等合計	397	492
純資産合計	29,522	28,855
負債純資産合計	38,213	38,255

(2) 四半期損益計算書
(第3四半期累計期間)

(単位:百万円)

	前第3四半期累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)
売上高	32,007	32,222
売上原価	10,248	10,594
売上総利益	21,759	21,627
販売費及び一般管理費	22,006	21,844
営業損失(△)	△246	△216
営業外収益		
受取利息	13	11
受取配当金	23	26
協賛金収入	8	13
その他	13	11
営業外収益合計	58	62
営業外費用		
支払利息	6	6
賃貸借契約解約損	2	36
その他	5	2
営業外費用合計	14	44
経常損失(△)	△202	△198
特別利益		
固定資産売却益	-	2
特別利益合計	-	2
特別損失		
固定資産除却損	43	33
減損損失	346	175
特別損失合計	389	208
税引前四半期純損失(△)	△591	△404
法人税、住民税及び事業税	87	88
法人税等調整額	△87	△95
法人税等合計	△0	△7
四半期純損失(△)	△591	△397

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。